

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770901342		
法人名	社会福祉法人 恭生会		
事業所名	グループホーム 和朗園		
所在地	大阪府高槻市井尻2丁目37番8号		
自己評価作成日	2020年3月28日	評価結果市町村受理日	令和2年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	2020年5月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「愛」と「和」の理念のもと、利用者の今までのあたり前の日常を維持することを目標に共同生活の中で、自らの役割を担い、達成感や満足間を得られるよう自身を維持できる援助に努めている。また、併設型のグループホームである強みを活かす為、1人の利用者と朗園全体として、支援できるような体制作りに取り組んでいる。センター方式を取り入れ、利用者の生活歴や現状の把握に努め、サービス内容をより個別化して、掃除、洗濯などの日常的な家事はもとより、買い物や外出の機会を確保、またご家族・地域の方が方々の協力のもと、花見、夏祭り、餅つきなどの季節に応じた催し、ありふれた家庭での日常を提供できるように取り組んでいる。総合病院が母体である為、緊急時対応についても安心館を得て頂いている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とする、総合介護福祉施設内の事業所である。施設合同で、研修・委員会活動・災害避難訓練・行事などを実施し、24時間対応の医療連携や緊急時対応の体制も整備している。施設内研修とともに外部研修受講を奨励し、職員が認知症ケアなど専門性が高められるように努めている。センター方式のアセスメントを採り入れ、情報を追記・更新しながら、利用者個々の生活歴や暮らし方の希望・意向の把握に努め、介護サービス計画に反映して個別支援に取り組んでいる。毎月の季節に応じたイベント、散歩・買い物などの外出、地域交流、施設内交流、家事参加など、生活の中で楽しみや役割が感じられる機会作りを努めている。面会時・運営推進会議・満足度調査等で家族の意見・要望を把握に努め、サービスに反映できるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

* 本評価は、緊急事態宣言により、令和2年3月実施予定を延期し、令和1年度分調査として実施したものです。

自己評価および外部評価結果

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設としての理念があり、文書化し各所に掲示している。ミーティング時など、理念を唱和し、周知を図っている。新入職時にも説明し、浸透に努めている。また、理念実践の為、研修を行う事で職員育成に努めている。	法人理念を共有し、その中に地域密着型サービスの意義を明示している。入職時の説明・フロア内の掲示・フロアカンファレンスでの唱和等により、共有を図っている。理念をもとに、年間事業計画の策定、人事考課面談、研修、カンファレンス等を行い、理念の実践につなげるよう取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の喫茶・学習会・清掃活動、学校行事等へ参加をしている。必要時には、協賛の形でも取り組んでいる。定期的に、広報誌の配布も行い、交流を図っている。	散歩・買い物・外食・月1回地域で開かれる喫茶・地域の祭り・学校行事など、利用者が地域に出かける機会を設けている。施設に演奏やヨガ等のボランティアの来訪があり、事業所からも利用者が参加し交流している。施設の納涼祭には、地域からの参加がある。中学生・高校生の職場体験や資格取得の実習生の受け入れ、地域向けの研修会開催、地域の清掃活動、広報誌による情報発信など、地域交流と地域貢献に継続的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域向け研修や広報誌や運営推進会議等を通じて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・住民・行政職員などの構成で、2ヶ月に1度開催し、議事録の掲示もしている。会議では事業所からの報告だけにならないように、参加者が意見を出しやすい雰囲気作りに努め、意見を活かせるようにしている。	利用者・家族・市職員・地域代表・事業所の職員を構成メンバーとし、2ヶ月に1回開催している。全家族に開催案内を出し、多くの参加が得られるように努めている。会議では、行事・レクリエーション・日常生活の報告、今後の予定、事故・苦情要望報告を、資料や写真を用いてわかりやすく説明している。市職員からの情報や家族からの意見等、会議での情報・意見・提案等を運営やサービスに反映できるように取り組んでいる。議事録は全家族に郵送するとともに、玄関に掲示して公開している。	

グループホーム 和朗園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とも日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に介護相談員が来所しており、入所者からの意見を聞き、助言・意見交換を行っている。	運営推進会議に市職員の参加があり、事業所の状況や取り組みを伝え、意見・情報提供を受けている。市が派遣する介護相談員の受け入れを通して市との連携がある。市主催の集団指導や施設サービス部会にも参加している。また、市の窓口への報告や相談も、適宜行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束を行わないケアを実践している。周辺症状が強くなる方については、専門医との連携で対応する様になっている。また、拘束によるリスクや言葉による拘束についても研修会を行う事で理解を深め、自分達の取り組みを見直す機会を作っている。	身体拘束適正化のための指針を整備し、身体拘束を行わないケアを実践している。毎月、施設合同の身体拘束適正化委員会を実施し、適正化に向けた検討を行っている。施設の合同研修で、「身体拘束・高齢者虐待防止」についての研修を、年2回実施している。委員会の「職員への周知事項」や研修内容の中で、スピーチロックやグレーゾーンについて採り上げ、意識向上に取り組んでいる。委員会や研修に参加できなかった職員には、議事録や研修報告書・資料の供覧により周知を図っている。安全性を考慮してフロアの玄関を施錠しているが、利用者に外出の希望があれば対応し、閉塞感を感じない生活の支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催、意識の苦情に努めている。又、職員のメンタルヘルスも考慮して、特定の職員だけに負担が溜まらないように連携を意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修を年1回以上実施しており、権利擁護に関する制度について管理者、職員が学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族には入所前に時間をかけて十分に説明を行っている。家族等も納得されている。		

グループホーム 和朗園

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に介護相談員が来所している。運営推進会議・来園時の声かけ等により、意見や苦情などを受け入れられる雰囲気づくりに勤めている。また、意見箱を設置、アンケートの実施を行い、より多くの意見を取り入れる様に努めている。	家族の面会時・電話の際に近況を報告し、ホーム便り(年4回)で生活の様子を伝え、家族の意見・要望の把握に努めている。意見箱を設置し、年に1回満足度調査を行い、介護サービス計画更新時に聴き取りを行う等、家族が意見・要望を表せる機会作りに取り組んでいる。個別の内容は支援や計画に採り入れ、迅速な対応に努めている。満足度調査の結果は掲示してフィードバックし、運営やサービスに反映している。運営推進会議に利用者・家族の参加があり、また、介護相談員の受け入れを行い、利用者・家族が外部者に意見を表せる機会も設けている。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや連絡ノートを活かし、職員の意見や提案を聞き入れる工夫をしている。また個人面談を実施したり、日頃から互いに話す機会を大切にし、思いを知ることにも努めている。	日々の申し送り・毎月のフロアカンファレンス・ケアカンファレンスで、職員が意見や提案を出し合って検討する機会を設けている。パソコン上の連絡ノートや各議事録の供覧により周知を図り、業務や利用者支援に反映している。随時には管理者層の職員が、定期的には管理者が年に1回個人面談を行い、個別に意見・提案を聴く機会も設けている。所属長会議等で、管理者が職員の意見・提案を上位者に伝える仕組みもある。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	充分とは言えないが、より向上心を持って働ける様に努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設全体の研修委員会や内・外部研修の案内を掲示し、自己啓発、資質向上の為に参加を促している。外部研修で学んだ知識の伝達研修もしている。		

グループホーム 和朗園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不十分ではあるが、外部研修の一環として他施設での実習があり、そこで施設の見学や意見交流する機会がある。また、グループ内の他施設へ実習する機会も設けている。学んだことを、ケアの実践に活かし、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時にはできるだけ本人・家族に見学に来て頂き、実際に施設内を見てもらう事で、不安の解消を図っている。また本人・家族の思いを聞き、書面等を使用して分かりやすく説明を行い、説明を受けて納得してもらった方に申し込んで頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族との面談・施設見学を含め、その後も密に連絡を取ると共に、担当ケアマネとも連携をとり、不安なこと、求めていることを受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所状況や本人の能力に合わせて、本人が一番必要として安心して生活を営む事ができる環境への支援の為、他のサービスや施設への案内・提案や趣味嗜好なども勘案しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の仕方や昔からの習慣・草花の名前・調理等、教えて頂く事を主体にしている。又、本人の趣味嗜好を確認して、日常生活に活かせるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と面会時や、電話連絡でケアへの取り組みについて、相談し、共に協力して、本人を支えていく関係を築けるように努めている。外出や行事等に家族も参加をしている。		

グループホーム 和朗園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それまでの生活で培った地域関係を大切にし、良い関係が継続できるようにしている。また、知人の面会の受け入れ、家族協力の下での外泊等、入所後の生活が特別な生活にならないよう今までの生活が継続出来る様に努めている。	馴染みの人や場所について、フェイスシートやセンター方式で情報の把握に努め、日々の会話で把握した情報は適宜追記している。家族の他に知人の来訪もあり、また、施設内の他事業所の利用者との交流もあり、馴染みの関係継続の機会となっている。電話や年賀状での関係継続も支援している。馴染みの場所への外出は家族の協力を得て行い、事業所としては準備やサービスの調整などで外出への支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に合わせて、座席の配慮・趣味の共有などで、関わりあえるよう努めている。又、フロア間でも交流を図り馴染みの関係作りを意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も希望がある場合、継続して相談に乗れるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人への関わりの中で思いを傾聴して、望んでいる生活や自立支援を図る為に出来ること、やりたい事についてはさりげない支援をこころがけている。居室環境も、なじみ・思い出を大切に出来るよう、家族にも働き掛けている。	センター方式をもとに、利用者個々の暮らし方や支援についての意向、希望や要望の把握に努め、介護サービス計画や支援の留意点等への反映に努めている。日々の会話の中で把握した思いや意向は適宜追記している。把握が困難な利用者については、質問方法を工夫したり、表情や反応から汲み取ったり、以前の情報や家族の意見を参考にして把握に努め、本人本位に検討できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関わりのある関係者より情報を得てその都度、センター方式を更新している。		

グループホーム 和朗園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に出来る事や望んでいる事を引き出し、把握する様にしている。日常の何気ない会話や仕草等の観察を通して把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントに家族の協力を得るなど、関係者に協力を依頼しながら、現状の介護内容とすりあわせを行い、ケアの方針を考えている。	フェイスシート・センター方式・利用者状況表をもとに、介護サービス計画書を作成している。計画書をファイルして設置し、計画内容・支援の留意点の周知を図っている。サービスの実施内容を経過記録①②・各種チェック表に記録し、経過記録②の項目欄に計画書のサービス内容の番号を記載し、計画と記録の整合性を明示している。定期的には3カ月毎に、必要時には随時、計画の見直しを実施している。見直しの際は、サービス評価表でモニタリングを行い、ケアカンファレンスで、利用者・家族の意向、医師や看護師の意見を反映し検討している。センター方式・利用者状況表は適宜追記し、年に1回程度更新している。	介護サービス計画書更新時に、再アセスメントを行うことが望まれます。また、月1回のケアカンファレンスの際、計画見直し以外の利用者についても、情報・意見交換と計画見直しの必要性の有無についての確認を行われてはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実施内容について、個別に記録し、職員間で情報共有する事で、一元的にならないよう見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ、出来るだけ通院送迎・外出などの支援も行うように努めている。又、併設事業所との協力も行き、和朗園全体で支援出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ地域イベントを含め、交流・支援環境を作れるように努めている。		

グループホーム 和朗園

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、今までのかかりつけ医を継続できるように支援している。又、併設クリニック・系列母体の病院との協力体制も確立できており、どちらも選択して頂ける様にしている。	入居時に確認し、利用者・家族の意向に沿った受診支援を行っている。併設クリニック・系列母体病院との協力体制により、往診や24時間の医療連携体制が整備され、往診前の医師への情報提供は看護師が行っている。通院での受診は家族の協力を依頼している。受診の結果はカーデックス・パソコン上の連絡ノートに記録して周知を図っている。管理日誌・個別の経過記録にも記録している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時、看護師に日常の健康管理について相談を行い、必要に応じて受診の必要性を判断している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況について、同意を得たうえで家族や病院関係者と連携を図っている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホーム利用が困難になること等も想定して、時々家族とも話し合っている。系列施設との体制を確立しており、地域で支援できるようにすることで、本人・家族の安心感も得られるようにしている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針を、重要事項説明書をもとに契約時に説明している。近年事例はないが、終末期を迎えた段階で「和朗園看取り指針」に沿って説明し、指針に沿った支援を行う体制を整備している。また、法人内の系列施設との連携体制についても、家族に説明している。施設の合同研修で、「看取り」についての研修を実施している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員による普通救命講習を開催している。また、急変時の初期対応マニュアルを準備している。		

グループホーム 和朗園

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。利用者も参加し、実際に避難している。グループホームでの夜間想定訓練も実施。	年2回、施設合同で、時間帯・発生場所等の想定を変えながら、防災避難訓練を実施している。消防署や消防設備会社の協力を得て実施し、指導や助言を受けている。訓練には地域の消防団の参加もあり、協力体制を築いている。訓練に参加できなかった職員には、実施記録の供覧により周知を図っている。施設の合同研修で、「防災について」の研修も実施している。備蓄は施設合同で行い、管理栄養士が備蓄リストを作成し管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者一人ひとりの人格・人権を考え、自尊心を大切にしように対応している。又、職員研修・誓約書による体制も敷いている。	施設の合同研修で、「倫理・法令遵守・プライバシー保護」「接遇」「人権」「認知症ケア」の研修を実施し、利用者尊重やプライバシー保護について学ぶ機会を設けている。サービス向上委員会からの発信や、管理者層からの注意喚起等を通して、意識向上に努めている。個人情報に関する書類は鍵のかかる書庫に保管し、写真の使用についても契約時に文書で意向を確認し、個人情報の適切な管理に取り組んでいる。職員の守秘義務については、入職時に誓約を交わしている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ジェスチャー等も取り入れ、本人の希望が聞けるように工夫している。また、日常の会話でも、希望を引き出せるような会話を心がけている。又、自己決定が難しい場合でも、選択肢を提示して少しでも本人の望む生活に近づけるように工夫している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースや好みを把握し、それに応じた声かけのタイミングや方法に配慮している。食事や外出の際の組み合わせにも、常に配慮している。		

グループホーム 和朗園

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院に行けるような支援や外出の際には、外出用の服装になるように支援している。祭りやイベントの時は、家族と連絡しながら、季節や希望に合わせた服装が着られるように努めている。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・食器洗い等も、出来る限り利用者の意見を取り入れ、職員と共に行うようにし、楽しめるように声かけや方法を工夫している。	施設の厨房で調理された食事を、各フロアで盛り付けて提供している。献立に、季節感や行事食が採り入れられている。職員も同じ食事でテーブルを囲み、家庭的な雰囲気ですべてが楽しめるように配慮している。2ヶ月に1回栄養委員会を開催し、利用者の嗜好や希望を献立や調理方法に反映できる仕組みがある。事業所で月に数回おやつ作りの機会を設け、利用者も参加できるように支援している。また、年間行事予定に入れて、バーベキュー会・流しそうめん・餅つき会等も実施し、「食」を楽しむ機会作りに努めている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したメニューを提供している。10時と3時をおやつ時間に決めて、利用者の好みを取り入れながら、飲み物を用意する等している。(栄養補助食品・ドリンクなども考慮)		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせ、声かけや見守り・一部介助の支援をしている。訪問歯科、訪問歯科衛生士のアドバイスを受け、1人1人にあった口腔ケアを行うよう努めている。		
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握、本人に合わせた時間での誘導を行ない、トイレでの排泄が出来るように努めている。また、食事や水分の摂取や日中の活動にも配慮している。	利用者状況表で自立度や支援方法を共有し、排泄チェック表で排泄状況や排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を支援している。夜間は安眠にも配慮し、利用者個々の状況に応じた支援を行っている。状況の変化等があれば、日々の申し送りや情報・意見交換し、カーデックスやパソコン上の連絡ノートで共有し、現状に適した介助方法や排泄用品について検討している。施設の合同研修で、「オムツの使用について」の研修を実施している。	

グループホーム 和朗園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	花壇の花を見に行く、花壇に水やりを行う等、ただ歩くだけの散歩にならないように工夫し、運動への参加を促している。又、利用者の好みを取り入れながら、飲み物を用意することで水分摂取量の確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間を昼間にすることで、少しでもゆっくと安全に落ち着いて、入浴できるように配慮している。	浴室は、2人が一緒に入れるゆったりとした広さがある。週2回、昼間の入浴を基本とし、利用者個々のペースでゆっくり入浴できるように支援している。利用者の心身の状況に応じて日程を変更したり、入浴を好まない利用者にはタイミングや声かけを工夫する等、経過記録で把握しながら、入浴機会が確保できるように対応している。年間行事予定にしょうぶ湯・ゆず湯を入れて実施し、季節感が味わえるように配慮している。	利用者の希望や生活習慣に応じて、入浴回数を増やせるように検討されてはどうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜には照明を落とし、静かにするようにしている。本人の様子に合わせて休息を促し、その際は居室の室温や換気に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師からの説明を理解し、共有している。変更ある場合は家族にも伝えている。また、利用者の状態に変化がある時は速やかに相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の希望や能力に応じて洗濯や調理等の家事の役割分担をしている。又、外出・習字やカラオケ等、希望に合わせて楽しみを提供するようにしている。		

グループホーム 和朗園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じ、外出機会を得られるように計画している。随時、散歩やドライブ、外食等に行き、個別支援にも心がけている。	天候や体調に配慮しながら、利用者の希望にそって、散歩・ドライブ・買い物・喫茶・外食など、個別の外出支援に取り組んでいる。地域の喫茶・学校行事・祭り等にも出かける機会を設けている。また、年間行事予定を立て、初詣・観梅会・観桜会・紅葉狩り等、季節が感じられる外出も支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力に応じて、一緒に買い物や外食に行き、協力して支払いをしている。家族と金銭に関わるトラブルと金銭を使う意味を話し合っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや、公衆電話に電話をかけるに行ったり、年賀状を出したりと、家族や大切な人とのコミュニケーションが取れるようにしている。また、携帯電話を持参されている方もおられ、自由にコミュニケーションが取れる環境が出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンを開け自然の光を取り込み、閉塞感が無い様に外の景色が見渡せるよう配慮している。玄関には季節の花を飾り、季節に応じた飾り付けを行っている。台所では食事毎に調理の音や匂いがするなど、利用者が居心地良く過ごせるよう、家庭的で馴染みある雰囲気作りを心がけている。	窓からの採光がよく、外の景色も見渡せ、リビングルームにテーブル席やソファ、廊下にもソファを設置し、思い思いにくつろげる環境である。玄関に季節の花、壁に利用者と一緒に制作した月毎の壁画を飾り、季節感が感じられる環境づくりに配慮している。台所での食事準備の音や匂い、また、おやつ作り・掃除・洗濯など家事作業への参加を支援し、生活感も採り入れている。ベランダも、外気浴や気分転換に活用している。	

グループホーム 和朗園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人が落ち着く雰囲気を持てるように、何ヶ所かに椅子やソファを置くことで、各々が好みによって使えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンスやテーブルセット、食器、趣味の物等を持って来て頂ける様に家族協力をお願いをしている。ベットや家具も、本人の希望に応じ、配置している。	各居室に、ベッド・たんす・クローゼットが設置されている。家族の協力を得て、たんす・テーブルセット・テレビ・仏壇・趣味のもの等、馴染みの家具や思い出の品等が持ち込まれている。利用者の状況に応じてレイアウトを変更したり、福祉用具を設置する等、安全面に配慮している。居室前に表札、たんすに衣類の分類がわかる表示をつけ、自立した生活を支援している。居室担当職員を設置し、家族と連携をとりながら衣類や環境の整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴時の洗剤に「頭」「身体」等の表示、また、整理タンス・洋服タンスに、衣類の分類が分かるように表示する等、工夫している。		